

平成23年度学校評価表(最終評価)

学校番号	75
------	----

長野県梓川高等学校

評点 5: 十分 4: ほぼ十分 3: どちらともいえない 2: やや不十分 1: 不十分

* 「評価項目」の () 数字は、重点目標の項目番号

領域	対象	評価項目	評価の観点	本年度の成果と課題	評点	具体的な改善策・向上策
教育活動	教育課程	(1) 教育課程研究とコース制の充実	生徒の要望や進路状況に応じた、カリキュラムの研究・検討を行い、特色ある教育課程づくりを行っているか。 学習指導要領改訂に伴う、新教育課程の作成について十分な検討を行っているか。	生徒の進路希望等のニーズを把握し、来年度の選択科目の開講講座や開講講座数の調整を行った。 継続課題であった、来年度、再来年度入学生の教育課程の編成が完了した。	4 4	生徒の進路希望等のニーズが実現するような選択科目を開講するよう努力する。 来年度はビジョン委員会の拡充が予定されており、明確となる将来像に対応した編成になるように研究を重ねる。
		(1) 基礎基本の定着と個の興味関心に応じた指導	生徒の学力実態に対応し、指導の工夫や教材作成に取り組んでいるか。	担当者それぞれが実態を把握につとめ、個々の能力が発揮できるよう工夫してきた。しかし、多様な生徒の関心や要求に応じ切れない部分もあつ	3	一斉指導と個別指導を通じて授業への積極的・主体的参加を促しながら、粘り強く基礎知識、基礎技術の定着に取り組み、さらに知的意欲が増すよう工夫する。
	学習指導	授業評価による授業改善	授業アンケート、定期考査等を通じ、生徒の理解、関心の度合いを図りながら授業改善に努めているか。	定期考査等の結果を踏まえて、教科ごとに生徒の理解度・定着度を把握し、改善に努めた。また、授業アンケートにより生徒の実態や関心を把握し授業内容の充実を図った。	4	定期考査の意義を理解させ考査のための準備を十分させるための工夫をする。また授業アンケートを通じて、生徒の授業に対する意識や関心の度合いを把握し、さらなる授業内容の充実に努める。
		(2) 3年間を見通した計画的な進路指導	学年や個に応じた進路指導計画の策定とタイムリーな情報提供がなされているか。	各学年で進路説明会・ガイダンスを実施することができた。進路に関する情報提供も適宜行うことができた。	3	進路指導年間計画を見直し、どの時期に何をどのように実施し指導していくのか、3年間を見通した指導計画を検討していきたい。
	進路指導	進路希望の実現と職業理解の促進	キャリアガイダンスや体験活動をとおして、職業理解の促進を図っているか。	就職説明会や就職見学会、Mウイングで明科高校と合同の就職ガイダンスに参加し、職業理解を深めることができ	4	仕事まなび塾等の職業体験活動に積極的に参加させていくことの大切さを職場見学や就職ガイダンスを通して学ばせ、職業理解を深めたい。
		生徒指導	(3) 基本的な生活習慣の確立	全職員の協力で生徒指導に当たり、集団生活のマナーやルール遵守の定着を図っているか。	空き時間の校外の見回り・放課後16時台の電車に合わせ駅周辺の見回りを行ってきた。	3
生徒相談体制の充実	生徒の状況を把握し、適切な支援を図るなど、特別支援教育の充実を図っているか。		発達障害支援専門員の協力をいただいでSSTやキャリアカウンセリングを行い、生徒の状況を把握し、支援に繋げる事ができた。	4	職員研修会をさらに充実させ、定期的に係り会を行い生徒の状況把握を行い問題点を明確にする。	
生徒会	(3) 自主的、主体的に行動する生徒の育成	生徒の自主活動に適切な助言と指導を行い、責任感・自治能力を育てているか。	生徒会行事の運営に必要な助言を行うことができた。執行部を中心に自主的に活動しようとする雰囲気になってきた。	4	大きな行事に当たっては、無理のない計画の中で準備が十分出来るよう、助言や指導をし、健康面・安全面でさらなる配慮をしていきたい。	
学校運営	組織運営	(1) 学校評価活動の充実	学校評価活動を通して、教育活動の向上・改善を図っているか。	各行事を終えるごとに、アンケートをとり、改善を図った。教育懇談会を開催し、教育活動の参考にしていく。	4	教育懇談会でいただいた意見を参考に、職員・生徒・保護者の力で、さらに教育活動の改善を図りたい。
		情報提供	本校の教育活動に関する情報や資料を、積極的に公開・提供をしているか。	新たな試みとして、梓川高校だよりを5号発行した。マスメディアへの情報提供も、タイムリーに行うことができた。	4	マスメディアには、今後も特徴的な取り組みや活動を提供する。ホームページの充実をさらに目指す。
	地域連携	(1) 地域の声や教育活動に生かす	中学校や上級学校との連携を図り、意見等を教育活動に取り入れているか。	中学との連携は、時期が折り合わず実施できなかった。大学のゼミ生との連携ができ大学の授業形態を体験した。	3	大学との連携は近くに複数の大学があるという地の利を生かし、地域との連携に結びつく内容で大学にアプローチしていければよい。
		教育力の活用	地域の教育力の活用を推進し、生徒の学習に生かしているか。	新たな試みとして、梓川高校だよりを発行し中学校への情報発信ができた。インターシップの企業開拓を始めた。	4	キャリア教育の推進が学校としての課題になるので、地域企業や大学の協力を得ることができるよう、連携を働きかけて行く。
	校内研修	(1) 授業・学習指導法の改善	授業改善に結びつけるため、研修会及び公開授業・研究授業等がなされているか。	職員向けの公開授業を6/13～6/17に実施した。一般公開授業を6/15と11/7に行い計80名が参加した。中学生が多く、授業をする側としても大いに刺激になった。	3	今後も継続していきながら、授業の改善がなされるようにしていきたい。本年度は研究授業が実施されなかったため、来年度は計画を立てたい。
		生徒の理解	多様な生徒の悩みを理解し、支援に結びつく研修となっているか。	専門家による発達障害に関する研修会を3回実施した。大いに勉強になったが、本校においてははまだ研修を継続する必要性を感じている。	3	発達障害に特化した研修になっているが、多様な生徒に対して幅広く対応していきたい。専門性と具体性の両面からの研修をしていきたい。